〔倭訓栞中編二十三〕へらばふ　俗語なり、諂諛の意にいへば、へつらふの轉語なるにや、

〔類聚名義抄六阜〕阿於何反オモネル　面　狀　面　容　阿倚也、近也、　嬈已上同

〔伊呂波字類抄於人事〕愐チモネル

〔書言字考節用集八言辭〕阿ヲモネル諂之義、王逸曰、所私爲阿、　便僻同尚書

〔倭訓栞前編四十五於〕おもねる　神代紀に、佞又順をよみ、又阿をよめり、面練の義、令色の意成べし、

諂諛も同じ、

〔新撰字鏡女〕嫵無主反、媚也、好也、古夫、

〔伊呂波字類抄古人事〕媚コフ　コヒタリ　睦　佞　呴　圍　諂已上同

〔書言字考節用集九言辭〕媚コフル　嬌同

〔日本靈異記上〕狐爲妻令生子緣第二

其女媚壯馴睇之○中略

媚コビ

〔倭訓栞前編九古〕こび　媚をよめり、戀ぶり也、ぶり反び也、安倍の清行が語に、こひたる辭と見えたり、新撰字鏡に、嫵をこぶとよめり、南都賦に、蠱媚字見えたり、詩に無爲夸毗、注に夸毘屈己屈身而附人也とも見えたり、

〔下學集下態藝〕追從媚諂義也

〔倭訓栞後編十都〕つゐしやう　源氏にみゆ、新猿樂記に、万民追從と見えたり、俗に追從輕薄、御前追從などいへり、

〔新猿樂記〕四郎君、受領郎等執鞭之圖也、○中略　況於田使、收納、交易、佃、臨時雜役等之使、不望自所懸預、但民不弊濟公事、君無損自有利、上上也、仍得萬民追從、宅常擔集諸國土產、貯甚豐也、